

第51期通期(2022年5月期)

決算説明資料

2022年7月14日

タケダ機械株式会社

証券コード：6150

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2022年5月期の決算概要 (連結損益計算書)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度又は対経営指標との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
売上高	4,444	3,500	+944	+27.0%
営業利益	373	102	+270	+263.0%
経常利益	409	178	+230	+129.6%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	260	118	+141	+119.3%

	当年度 実績値	経営指標	対経営指標との差異	
売上高	4,444	4,000	+444	+11.1%
経常利益	409	100	+309	+309.0%

【前年度との主な要因】

新型コロナウイルス感染症の影響が改善
傾向へ（対前年度）→緩やかな継続へ

- ・製造部品の長納期化
 - ・鋼材価格等の価格上昇 } 課題の発生
- 経済・雇用対策の効果
- ・設備投資に対する補助金
 - ・雇用助成金（雇用維持等の支援）

【経営指標との主な要因】

経済・雇用対策の効果

- ・想定を上回り、売上高の増加
- 都市部を中心にインフラ投資の再開
- ・操業度の改善

2022年5月期の決算概要 (品目別売上高)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
			絶対値	増減率
形鋼加工機	2,927	2,095	+831	+39.7%
丸鋸切断機	338	364	△25	△7.0%
金 型	401	351	+49	+14.0%
受託事業他	183	140	+42	+30.1%
部 品	504	455	+49	+10.9%
サ ー ビ ス	88	92	△3	△3.5%
合 計	4,444	3,500	+944	+27.0%

【形鋼加工機の主な要因】

引き続き堅調な内需

- ・都市部の鋼構造物プロジェクト
- ・物流倉庫、データセンターの建設

【丸鋸切断機の主な要因】

半導体部品の長納期化

- ・自動車関連業界の生産調整
- ・鋼材加工業界は生産活動の持ち直し

【金型の主な要因】

形鋼加工機の出荷増加、機械稼働の改善

- ・製品に付帯する金型の出荷増加
- ・金型単体の需要回復

【受託事業他の主な要因】

工作機械の生産活動の回復

- ・タケダ精機(株)の売上高増加(対前年同期比36.5%増)
- 生産設備増強の効果も後押し

2022年5月期の決算概要

(連結貸借対照表：資産の部)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
			絶対値	増減率
流動資産	4,279	3,896	+383	+9.8%
固定資産	2,459	2,455	+3	+0.2%
(有形固定資産)	(1,964)	(1,957)	(+6)	(+0.3%)
(無形固定資産)	(107)	(146)	(Δ38)	(Δ26.5%)
(投資その他)	(387)	(351)	(+35)	(+10.2%)
資産計	6,739	6,352	+387	+6.1%

【流動資産】

(増加の主な要因)

- ・現金及び預金 +546

(減少の主な要因)

- ・受取手形及び売掛金 Δ115

【固定資産】

(増加の主な要因)

- ・機械装置及び運搬具 +53

(減少の主な要因)

- ・リース資産 Δ36
(無形固定資産のリース資産を含む)
- ・建物及び構築物 Δ22

2022年5月期の決算概要

(連結貸借対照表：負債及び純資産の部)

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異		
			絶対値	増減率	
負債	2,420	2,281	+139	+6.1%	↗
(流動負債)	(1,769)	(1,610)	(+159)	(+9.9%)	↗
(固定負債)	(651)	(670)	(Δ19)	(Δ2.9%)	↘
純資産	4,318	4,071	+247	+6.1%	↗
(株主資本)	(4,319)	(4,087)	(+231)	(+5.7%)	↗
(包括利益)	(Δ0)	(Δ16)	(+15)	—	↗
負債・純資産計	6,739	6,352	+387	+6.1%	↗

【負債】

(増加の主な要因)

- 長期借入金 +200
(1年内返済予定の長期借入金を含む)
- 未払法人税等 +140
- 支払手形及び買掛金 +105
- 賞与引当金 +32

(減少の主な要因)

- 短期借入金 Δ400

【純資産】

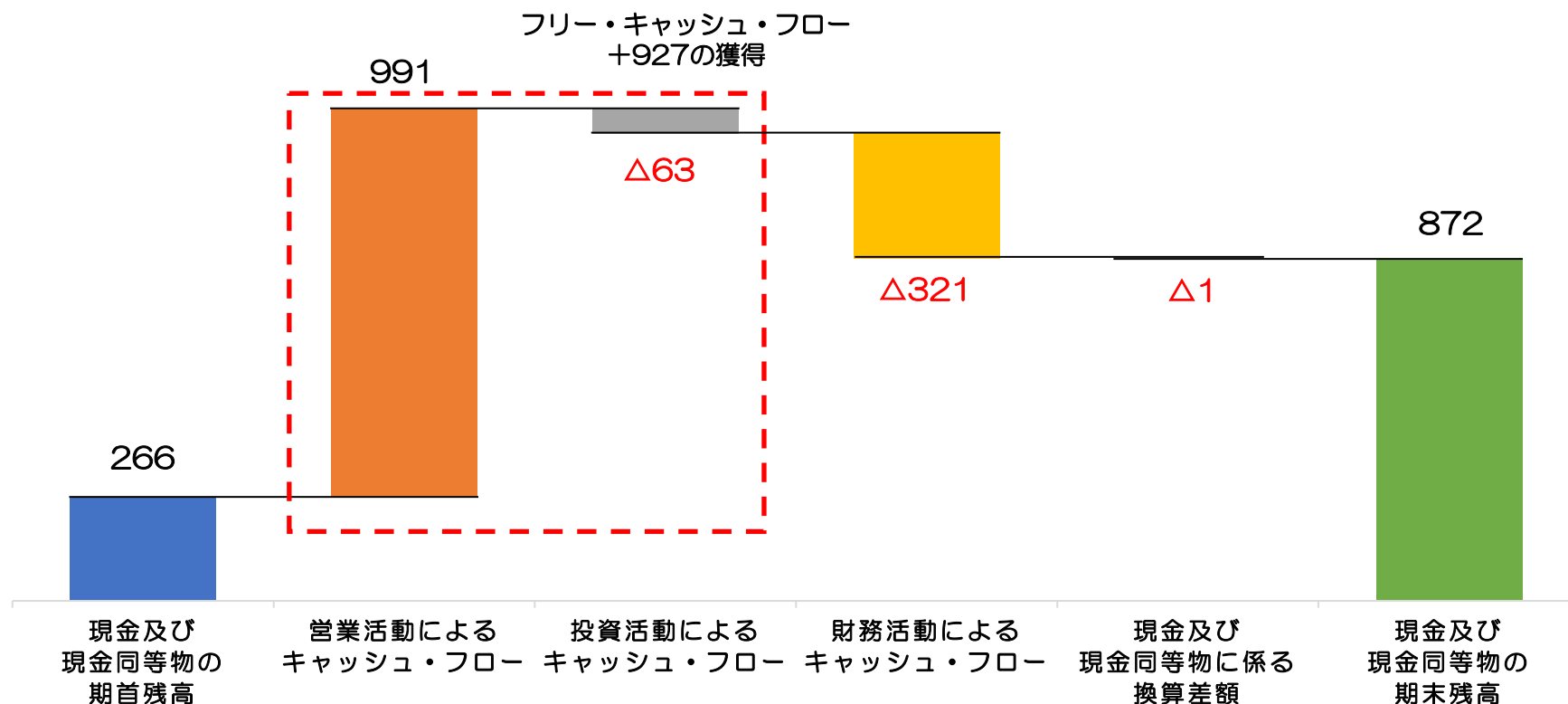
(増加の主な要因)

- 利益剰余金 +232
- その他有価証券評価差額金 +15

2022年5月期の決算概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)①

当年度における現金及び現金同等物の増減推移

(単位：百万円未満切捨て)



(注) フリー・キャッシュ・フローに記載する金額は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローに記載する金額を合計した金額であります。

2022年5月期の決算概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)②

(単位：百万円未満切捨て、%表示は対前年度との増減率)

	当年度 実績値	前年度 実績値	対前年度との差異	
期首残高	266	465		
営業活動によるCF	991	△138	+1,130	—
投資活動によるCF	△63	8	△71	—
財務活動によるCF	△321	△67	△253	—
換算差額	△1	△0	△0	—
期末残高	872	266	+605	+227.1%

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

(増加の主な要因)

- 税金等調整前当期純利益 +224
- 仕入債務の増減額 +253
- 売上債権の増減額 +194
- 棚卸資産の増減額 +116
- 法人税等の支払額 +116
- 賞与引当金の増減額 +59

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

(増加の主な要因)

- 保険積立金の解約による収入 +46

(減少の主な要因)

- 固定資産の取得による支出 △68
(有形固定資産と無形固定資産の合計額)
- 定期預金の支出入 △36

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

(増加の主な要因)

- 長期借入金の支出入 +555

(減少の主な要因)

- 短期借入金の支出入 △850

(注) 1. 表中に記載の「CF」とは、「キャッシュ・フロー」を略したものであります。
2. 右記のコメントに記載している内容は、対前年度との差異についての記載であり、決算短信に記載する内容と異なっております。

2022年5月期の決算概要 (直近の業績推移、翌期の業績予想)①

(単位：百万円未満切捨て)

	直近の業績推移					※翌期予想
	2018年	2019年	2020年	2021年	当年度	
売上高	5,374	6,141	5,056	3,500	4,444	4,800
経常利益	661	861	542	178	409	330
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	451	640	350	118	260	245

※2022年7月14日付
公表の予想数値

【翌期の見通しについて】

(プラス要因)

底堅い継続的な内需

- 都市部の鋼構造物プロジェクト
- 国土強靱化基本計画によるインフラ需要
- 物流倉庫、データセンター等の建設

(マイナス要因)

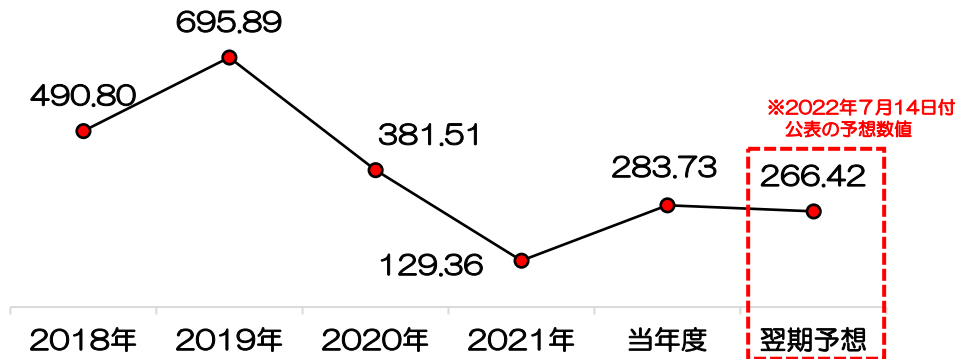
新型コロナウイルス感染症の影響

- 縮小しながら緩やかに改善する見通し
- #### 製造部品の長納期化
- 半導体部品以外の部品にも影響
- #### 鋼材価格の高騰
- 外需の高まり→品薄の状態へ

2022年5月期の決算概要 (直近の業績推移、翌期の業績予想)②

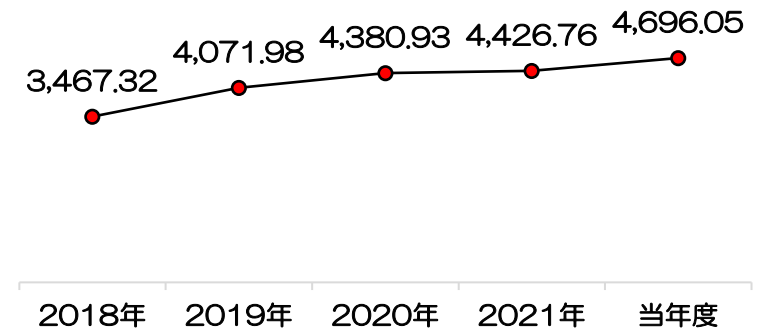
1株当たり当期純利益

(単位：円)



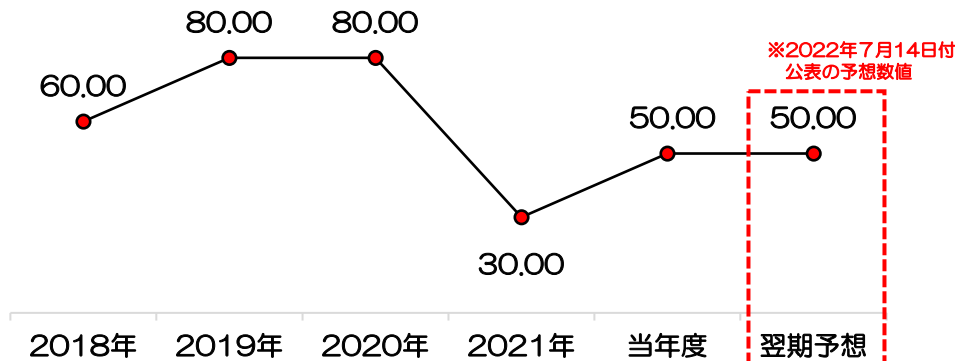
1株当たり純資産

(単位：円)



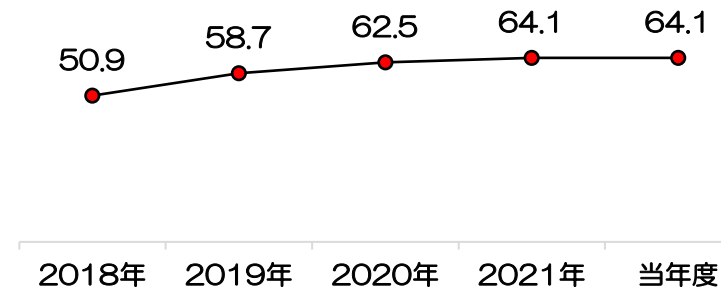
1株当たり配当金

(単位：円)



自己資本比率

(単位：%)



2022年5月期の決算概要 (直近の現金及び現金同等物の推移)

(単位：百万円未満切捨て)

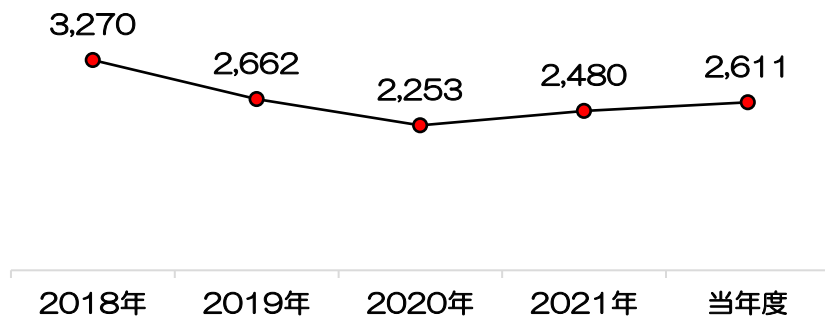
	直近の現金及び現金同等物の推移				
	2018年	2019年	2020年	2021年	当年度
期首残高	338	206	438	465	266
営業活動による キャッシュ・フロー	407	769	386	△138	991
投資活動による キャッシュ・フロー	△45	10	△281	8	△63
財務活動による キャッシュ・フロー	△492	△548	△77	△67	△321
換算差額	△1	0	△0	△0	△1
期末残高	206	438	465	266	872
フリー・キャッシュ・ フロー	362	779	105	△130	927

(注) フリー・キャッシュ・フローに記載する金額は、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローに記載する金額を合計した金額であります。

2022年5月期の決算概要 (直近の期末株価、各利益率等の推移)

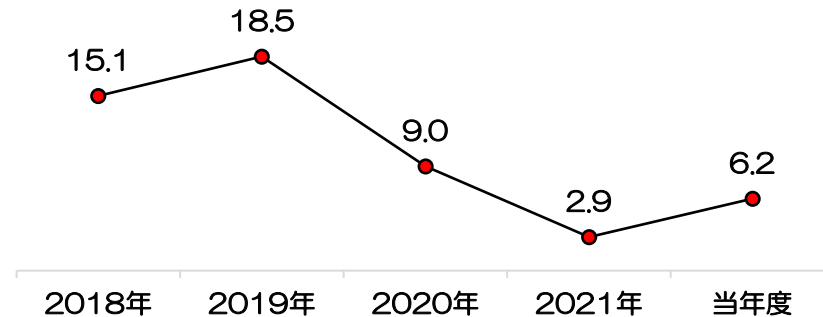
期末日の株価

(単位：円)



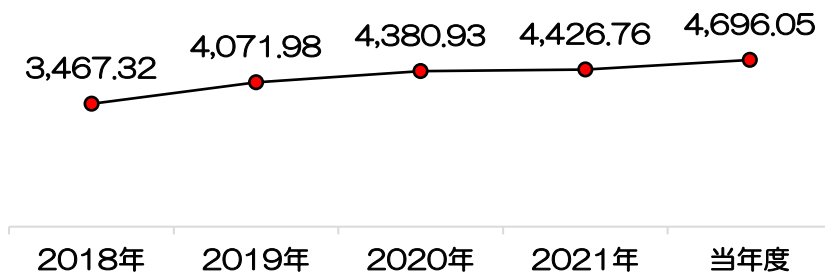
自己資本当期純利益率

(単位：%)



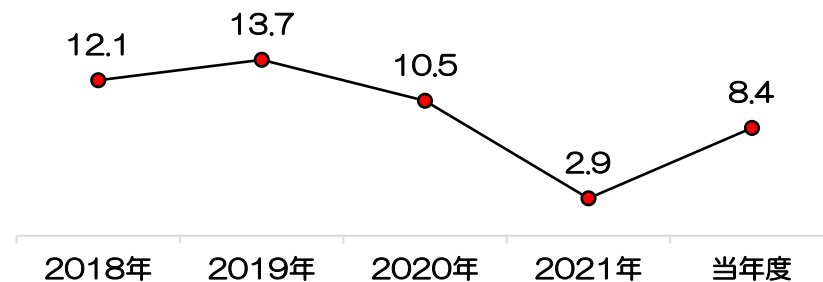
※(参考) 1株当たり純資産

(単位：円)



売上高営業利益率

(単位：%)



2023年5月期の経営課題への取組み

当社を取り巻く環境	翌期の取組み	中長期の取組み
引き続き底堅い内需 ・インフラの老朽化 ・都市部の建設需要	新製品開発の強化 ・年間2機種の開発 ・客先仕様機への対応	新製品開発力の向上 (継続) ・マーケティングの強化
少子高齢化社会 ・生産人口の減少 (設備の省人化等の需要) ・内需の縮小	ブランディング活動の継続 ・新製品(機能アップ)+外観デザインの刷新→ブランド認知度の向上	
新型コロナウイルス感染症の動向	付加価値の向上 ・ICT技術による業務改善 ・品質向上の強化 →ムダ取りの徹底(継続)	適正在庫のコントロールの具現化を目指す。 ICT技術を備えた製品とサービスの充実
企業価値の向上 ・厳しい上場維持基準 ・求められるCG ・ESG、雇用への対応	海外販売戦略の再構築 ・販売店の構築(開拓・教育) ・市場調査の活用	重点エリア：東南アジア 鋼構造物、インフラ整備 需要の取込み
	人材育成の強化	(継続)
	企業価値の向上 ・多様化する社会への対応 (雇用・環境等)	(継続)

ご参考：2023年5月期の中期計画 (直近2年間の実績と3ヵ年中期計画について)

(単位：百万円未満切捨て)

	直近2年間の実績		※2023年5月期の中期計画		
	2021年 (実績値)	当年度 (実績値)	2023年 (翌期予想)	2024年 (ご参考)	2025年 (〃)
売上高	3,500	4,444	4,800	5,300	5,500
経常利益	178	409	330	600	650
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	118	260	245	390	422

※ 2023年5月期の中期計画について

- 前頁に記載する取組みの結果を想定したものであります。
- 2023年は翌期予想(経営指標)、2024~2025年はご参考となります。

新製品のご紹介



ドリル孔あけ&丸鋸切断複合機「CBF-3015 II-M」

【特長】

- **ミーリング加工対応**、工作機械用CNC装置を搭載
- 自動工具交換装置(ATC)を装備、工具10種類を収納
- 3軸同時加工による最短の孔あけ
- **IoTリモートサービス機能**で、機械の状態を確認
- オプションの自動搬入装置、自動搬出装置で更なる効率化



形鋼加工機 ユニットワーカー「UWD-45 III / 70 III」

【特長】

- **新デザインで安全性向上**、ワーク搬入出開口部を縮小
- **NC定寸装置が45m/minに高速化**
- 定寸装置駆動ピニオンギア(可動部)へカバーを追加
- 多種多様な加工に対応、タケダ独自の豊富なユニット金型
- 金型ストック台で金型交換が簡単スピーディ

HUMAN HEART

お客さまそれぞれの、課題に corres える加工システムをご提案します。